

OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) A.T
所属 (School) 生命環境科学域 緑地環境科学類
学年 (Grade) 2
留学先 (Name of overseas institution)
トゥール語学学院 (Institut de Touraine)
留学期間 (study abroad period)
2017/09/03~2017/9/26
記入日 (Date) 2017/10/12

留学レポート Study Abroad Report

僕は先日フランス・トゥールの語学学院で3週間フランス語の授業を体験してきました。ここにはそのフランスでの経験と感想、またこれから留学を考えている方へのアドバイスを書きたいと思います。

まず大前提として、僕自身のフランス語力を明示しておきます。結論から言うと、僕は一切と言っていいほどフランス語が話せません。また読むことも書くこともできません。なぜならフランス語の勉強を開始したのは今年の4月からで、週1回1.5時間の授業をたった数か月間受講しただけからです。ここから先はその程度の語学力でフランスに向かった学生の留学先での感想だということを理解していただけるようお願いします。

ここに書きたいことは色々あります。ただし、様々な話題について少しずつ書いても何の参考にもならないと思うので、滞在中僕の主な悩みであったフランスでの授業と語学力の成長についてのみ触れようと思います。(おそらくフランスの文化や生活等については他の人が書いてくれているだろうという憶測に基づいて…)

学校での初日、いきなりコースわけの口頭面接を受けることとなります。まず何を言っているのか理解できません。フランス語の単語とジェスチャーを駆使して無理矢理自分の意思を伝えることとなりますが、とてもフレンドリーな先生の面接だったのでそのような状態でも得に気にかかるようなことはありませんでした。

コース分けが終わればその日からすぐに授業開始、もちろん一番レベルの低いクラスです。何を言っているのか全く理解できない説明の後すぐにクラスに放りこまれ、そこから先はフランス語の授業がもの凄く速さで展開されていきます。先生が何を言っているかはもちろん理解できませんし、プリントに書いてある問題の指示すら読めません。こんな日が5日間続き、初めの一週間は授業での指示を理解できるようになるための週として過ごしました。

驚くべきことに2週目にもなれば授業にも慣れ、ある程度先生の指示なども聞き取れるようになってきます。語学における耳の慣れというものは本当に大切なものだと感じました。そこから先は比較的气持が楽になりますが、むしろ少し話を理解できるようになったぶん迷う選択肢が増えて授業がむしろ難しく感じたりします。

しかし現地での勉強というのはやはりとても良い刺激になるのか、3週目にもなればもう先生と授業中に冗談を言い合っただけで笑いあうようなことまでしていました。これは僕だけでなく周りの日本人も理解していたようだったので、僕が特別優秀だったというわけでもありません。たった3週間であっても、現地で常にフランス語に触れていたことで全員が飛躍的に語学力を上昇させていたように感じます。

以上がトゥール語学学院の授業における僕の体験のおおまかな枠組みです。本当にざっと3週間の体験を述べましたが、この20行程度の文章からは想像もできないほど密度の高い3週間です。自分がろくにできもしない言語に常に囲まれてほぼ1ヶ月見知らぬ環境で過ごすわけですから、当然精神的に楽なものではありません。僕自身も少しその環境から逃げ出すような日もありました。環境にやや押しつぶされそうになっていた僕ですら語学力の面において大きな成長を感じたので、「フランスで生活」「異国

での貴重な経験「異文化交流」といった面は関係なく、ただフランス語を学びたいと思っているだけであったとしても迷わず研修に参加すればいいと思います。せっかく大阪府立大学でフランス語を学んでいるのですから、是非大学側の提供するプログラムを利用して自分の興味を満たしてみてください。